

織田信長の泊った城：田中城跡をご案内。信長公記に見える「田中の城」と考えられ、3度名を見ることが出来る。高島郡（現高島市）は、信長の最大の危機：元龜争乱の舞台になった所。その発端は、元龜元年(1570)4月20日、上洛要請を無視する朝倉義景を倒幕するため、織田信長の軍勢は、京都を出発し、湖西を北上し若狭から敦賀に向かったが、その途次4月21日、信長は「田中城」に逗留している。この軍勢に、のちの豊臣秀吉・明智光秀・徳川家康も参加してる。順調に朝倉方の諸城を攻略したものの、4月28日、信長に義兄弟でもある浅井長政謀反の知らせが届く。最悪の場合、越前の朝倉方、北近江の浅井方から挟み撃ちにされる窮地に陥った。28日、浅井の謀反を確認した信長は、すみやかに金ヶ崎城を出立。信長は若狭街道を進み、その日は、国吉城（佐柿）に入った。29日、朽木氏国人領主・朽木元網の屋敷で一夜を過ごしている。信長一行は、元網の先導で険しい朽木谷を無事越えた。秀吉・光秀らの殿軍の決死の退却戦により、信長は絶対絶命のピンチを切りぬけ、30日京都に戻った。二度目は、元龜三年(1572)3月、「信長、和邇に出陣し、浅井・朝倉軍を木戸・田中の城に追い込む」三度目は、元龜四年(1573)7月、「信長、大船にて高島郡を攻撃。陸からも木戸・田中の城を攻める。」とある。元龜四年(1573)浅井長政の勢力下にあった田中城は、信長によって攻略され、その後は、明智光秀の支配を受けて終焉を迎える。

このように、田中城が「歴史」に登場するのは、戦国末期、「信長公記」元龜元年(1570)の条からと言われていたが、近年発表された資料(新薬方)によれば、**明智光秀は永禄八年ごろ(浅井長政に仕えていたころ)、近江国高島郡田中城(滋賀県高島市)に籠城していたと発表された。**(NHK歴史ヒストリア：小和田和男先生) 書籍 歴史 REAL 明智光秀 P, 24 2019,3,9 発行)

新薬方：熊本藩第二家老米田家に伝来の「米田文書」の残された医学史料の一つ（熊本大学附属図書館）近年、その奥書に「右一部、明智十兵衛尉高嶋田中・城之時口伝也」とあることが確認された。沼田勘解由左衛門が筆録し、さらに永禄九年(1566)十月二十日に米田貞能が近江坂本で写した。



上寺集落



堀切



観音堂①（松蓋寺跡）



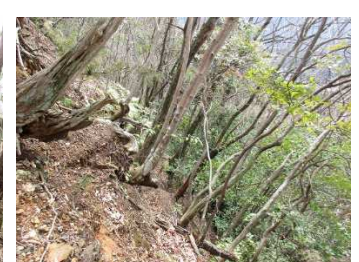
②（松蓋寺跡）



③（松蓋寺跡）



切岸を確認する



切岸



つぶて石



天守跡



水の手



玉泉寺①



②

◆自然観察



シキミの花が咲いていた。「きれいなお花」「シキミなんて、今いやねえ。あまり良くないね」など話題になった。

「お墓に植植え」る「毒なので、動物が掘り起こさないので、お墓に植える。」など・・・